

高悪性度髄膜腫の病態解明と新規治療戦略の開発へ向けた体制の構築

2001年1月1日から2030年3月31日高悪性度髄膜腫のために手術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「高悪性度髄膜腫の病態解明と新規治療戦略の開発へ向けた体制の構築」という研究を行います。この研究は、2001年1月1日から2030年3月31日までに東京労災病院脳神経外科にて、高悪性度髄膜腫のために手術を受けられた患者さんの遺伝子を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただく前に、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：高悪性度髄膜腫の病態解明と新規治療戦略の開発へ向けた体制の構築

研究期間：2022年2月22日～2032年3月31日

研究責任者：東京労災病院 脳神経外科 森田 明夫

(2) 研究の意義、目的について

本研究は、今現在も治療が難しい高悪性度髄膜腫に関して、本邦の現在の治療成績、主たる治療法である手術と放射線治療の治療効果と合併症や治療成績に関与する因子、さらに手術中に採取された検体を使用した脳腫瘍ゲノムの網羅的な解析、などを通して、より良好な治療成績を達成するために有効な治療法を検討したり、高悪性度髄膜腫の発生や治療に対する反応性にどのような遺伝子が関わっているか調べたりする目的で行われるものです。この目的のために、過去に当科にて脳腫瘍に対して手術を受けた患者さんのうち当院で保存している腫瘍検体の一部を本研究のために使用させていただきます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2001年1月1日から2030年3月31日東京労災病院脳神経外科にて、高悪性度髄膜腫のために手術を受けられた患者さんの遺伝子を解析します。すでに採取された腫瘍検体の一部と臨床データを用いるため、新たな検査や費用負担が患者さんに生じることはございません。ただし、ご同意いただいた患者さんからは血液のサンプルの提供を受け、生殖細胞系列遺伝子の解析を予定しています。血液サンプルは、通常の診療の目的で行われる採血の際に5mL程度の少量の血液を上乗せして採取する形で行われるため、健康被害が生じることはないと考えられます。検体を使用させていただいた患者さんへの謝礼はございません。使用する検体とデータは完全に匿名化し、個人が特定されないよう個人情報に関しては厳重に管理いたします。個々の症例に関する遺伝子・蛋白解析結果は、患者さんへは原則として開示をいたしません。腫瘍検体の研究利用の拒否を希望される方、あるいは何らかの遺伝カウンセリングを希望される方、は下記の連絡先へご連絡いただけましたらご案内申し上げます。研究に用いた検体等は本研究が終了する2032年4月1日以降も引き続き保存され、本研究の趣旨と合致する目的を持つ研究については、適切な手続き・審査を経て二次的に活用される可能性があります。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。この際も個人情報が公表されることは全くございません。

(6) 問い合わせ等の連絡先

東京労災病院 脳神経外科 部長 加藤 宏一

〒143-0013 東京都大田区大森南 4-13-21

電話番号：03-3742-7301（代表）